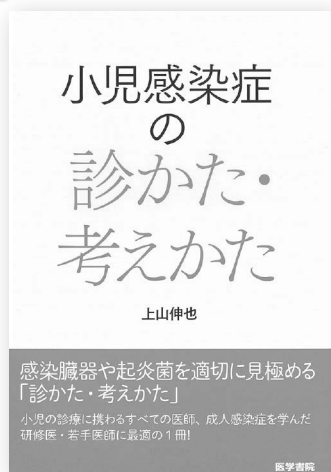


今月の特集関連本

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート (p.391) に
ご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。

P



小児感染症の診かた・考えかた

上山伸也＝著

本体 4,400 円＋税／A5 判・448 頁／医学書院／2018

小児感染症において、感染臓器や起炎菌を適切に見極める「診かた・考えかた」が満載！ 本書を読めば、①小児の診療に携わるすべての医師→正しい感染症診療を実践できる！ ②成人感染症を学んだ研修医・若手医師→小児を診る時のとまどいや違和感が軽くなる！ 小児と成人の違いや共通点がわかる！ 感染症各論では、小児のどの年代に多い感染症か、よくみられる起炎菌、適切な診断方法、抗菌薬の選び方、経過の追い方について記述。p.369 に書評あり。

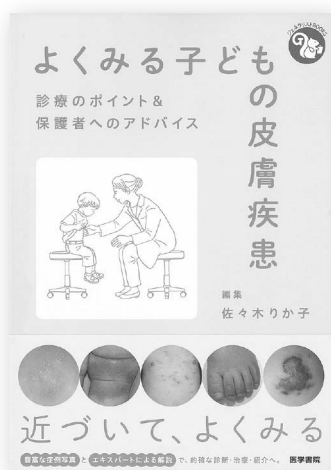


誰も教えてくれなかった「風邪」の診かた 感染症診療 12 の戦略 第2版

岸田直樹＝編

本体 3,500 円＋税／A5 判・336 頁／医学書院／2019

小児診療においても「風邪」の診かたは大いなる課題です (p.280・284・290)。“誰風邪 (だれかぜ)” の愛称で親しまれる大ベストセラー書が、満を持して7年ぶりの大改訂！ 初版で圧倒的な支持を得た、プライマリ・ケア現場における「風邪と重篤な疾患との見極めかた」に磨きをかけたのみならず、高齢者の風邪診療や薬剤耐性菌など診療現場を悩ませる重要課題にも明快に処方箋を示した。プライマリ・ケアの足元で感染症診療の定説が揺らいでいる今、日々の「風邪」診療における12の戦略が明日の医療を変える！



《ジェネラリスト BOOKS》

よくみる子どもの皮膚疾患 診療のポイント&保護者へのアドバイス

佐々木りか子＝編

本体 4,000 円＋税／A5 判・256 頁／医学書院／2018

小児科・内科を訪れる子どもの多様な皮膚症状を、豊富な症例写真とともにエキスパートがわかりやすく解説。外来でみることが多い子どもの皮膚疾患の「原因」「症状」「鑑別」「治療」のほか、感染症では「登校（園）の目安」、あざ・色素異常では「治療や紹介の目安」もわかる。保護者への情報提供にも重点を置いており、最新のエビデンスに基づくスキンケアの指導法から、的確なホームケアへつなげることができる。

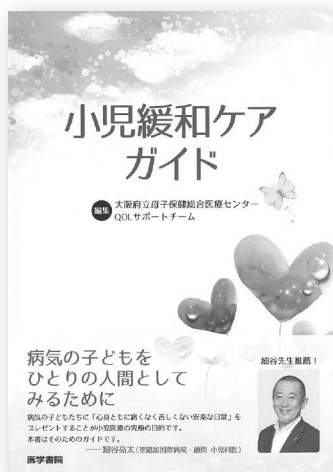


こどもの神経疾患の診かた

新島新一、山本 仁、山内秀雄＝編

本体 6,500 円＋税／B5 判・256 頁／医学書院／2016

小児神経診療の入門書。日常的によく遭遇するこどもの症候に対し、フローチャートをもとに鑑別診断を行う「症候編」と、患者家族説明の具体例と主な疾患の解説をあげた「疾患編」の2部構成。症候からの鑑別診断から、疾患を押さえ、さらに診療の実践が記載されている本書の流れは、まさに臨床現場そのものの。こどもの神経疾患を見逃さないために！

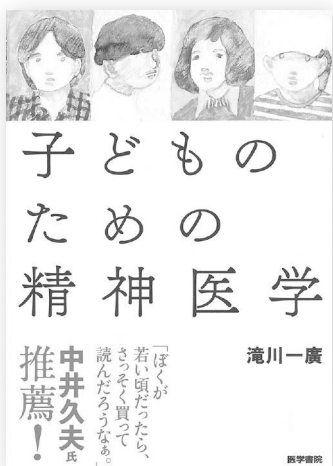


小児緩和ケアガイド

大阪府立母子保健総合医療センター QOL サポートチーム＝編

本体 3,800 円＋税／B5 判・152 頁／医学書院／2015

「緩和＝ターミナル」と思われがちだが、痛みや苦しさを取り除き、快適な療養生活をもたらす姿勢こそが本書の原点。小児専門病院の医師・看護師・薬剤師・臨床心理士・MSW・ホスピタルプレイ士が職種の壁を超えて執筆した本書は、小児の日常診療に活かせるエッセンスが満載。小児に関わるすべての医療者にオススメの1冊。「フェイススケール／オピオイドの力価換算表」のポケットカードつき。「こどもの苦痛は最小限に。笑顔を最大限に」！



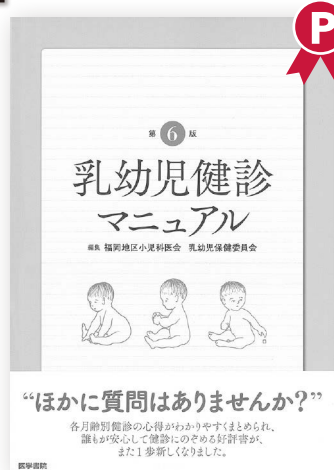
子どものための精神医学

滝川一廣＝著

本体 2,500 円＋税／A5 判・464 頁／医学書院／2017

発達障害？アスペルガー症候群？知的障害？自閉症？ADHD？LD？とこころでスペクトラムって何？錯綜する診断名を「認識と関係の座標軸」のもとに一望する。ありそうでなかった児童精神医学の基本書。事例の機微をすくい上げる繊細な筆さばき、理論と実践の生きいきとした融合、そして無類の面白さ！マニュアルでは得られない「納得」がここに。

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート (p.391) にご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



乳幼児健診マニュアル

第6版

福岡地区小児科医会 乳幼児保健委員会＝編

本体 3,200 円＋税／B5 判・168 頁／医学書院／2019

本書の編集委員会は、全国でもアクティブに活動する団体として小児科領域を先導しており、特に乳幼児健診では“福岡式”として全国的な認知度も高い。基本的なコンセプトは前版までを踏襲し、誰もがすぐに目を通せる要点をまとめた使いやすさを心がけ、乳幼児健診をあまりよく知らない人でも合格点の健診ができる内容になっている。今版では情報内容が更新され、さらに乳幼児に関わるトピックやコラムもより充実した。



乳幼児の発達障害診療マニュアル

健診の診かた・発達の促しかた

洲鎌盛一＝著

本体 2,500 円＋税／A5 判・130 頁／医学書院／2013

発達障害のエキスパートの目と技、診療のコツがわかる！乳幼児の発達異常を早期に見つけるためのエッセンスと、お母さんに伝えたい「発達を促すアドバイス」「家庭で気にかけてほしいポイント」をわかりやすく提示。健診で「様子をみましょう」と保護者に伝える際、その後に適切な言葉を続けなければ早期発見・介入の機会を逃すことになる (p.315)。本書では、その「次の一言」のヒントを多数紹介。乳幼児健診に関わるすべての医療者に贈る 1 冊。